

太子町立学校園幼小中一貫教育 取り組みのご報告

令和4年度～令和6年度のあゆみ

太子町教育委員会
太子町幼小中一貫教育推進委員会



子どもを主語に 非認知能力を引き出し 一人ひとりの可能性を広げる

太子町では、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、子どもを主語に個々の可能性を最大限に伸ばすため、幼稚園から中学校までの学びを非認知能力というキーワードで連続的に結びつけた幼小中一貫教育を令和4年度から進めてきました。

太子町の幼小中一貫教育 3年間のあゆみ

太子町では、令和4年度から幼小中一貫教育を推進し、幼稚園から中学校までの12年間を一貫して支援する体制を整えています。少子化や社会の多様化が進む中、子どもたちには、学力だけでなく、豊かな心や健やかな体をバランスよく育むことが求められています。

この取り組みでは、幼小中一貫でめざす子ども像を目指し、手段として「非認知能力」の育成を重視し、子どもたちが自ら考え、行動し、他者とつながる力を育むことをめざしています。特に、「子どもを主語に」という理念のもと、大人が子どもたちの気持ちや意見を尊重し、安心して自分を表現できる環境を整えています。

「めざす子ども像」

「幼小中のつながりをもとに
豊かな人生とより良い社会を主体的につくるため
自ら考え、うごき、相手を大切にできる人」

子どもたちが主体的に学び、他者と協力しながら、充実した人生を築く力を育むことを目標としています。太子町の教育における「豊かな人生」とは、子どもたちが自分にとって「良い」と思える人生を歩むことであり、それぞれの個性や価値観を大切にしながら、多様な道を進むことを指します（well-being（ウェルビーイング））。単に一つの正解に縛られるのではなく、子どもたちが自分で選び、納得して進む道が「豊かな人生」となるように、環境を整えています。

また、「**良い社会を主体的につくる**」は、自らの意志で考え、行動し、社会の中で主体的に役割を果たす力を意味します。子どもたちが、自分自身の考えを持ち、他者と協力しながら問題を解決していく力を育てることで、未来の社会に貢献できるようになることを目指しています（agency（エージェンシー））。

主な取り組み

・7つの非認知能力の育成

子どもが自ら考え、行動し、つなげる力を養うために、具体的な行動指標（ループリック）を用いて支援します。

・キャリアパスポート

学期ごとの目標設定と振り返りを通じて、子どもたちが自分の成長を確認し、主体的に学ぶ姿勢を育てます。

- 

自分と向き合う系の力

 - ▷ あきらめない力：粘り強く取り組み力
 - ▷ 自分を鼓舞する力：悪い運引きかえたいことがあっても気持ちを変え替える力
- 

自分を高める系の力

 - ▷ 自己・夢を持つ力：なぜ！自分・夢を強く力
 - ▷ 粘る力：何事も、まずやってみる力
- 

他者とつながる系の力

 - ▷ 協働する力：他者と一線に目標達成のために協力する力
 - ▷ 受け入れる力：相手の立場を理解し、相手のことを認める力
 - ▷ 伝える力：自分の思いを共有する力

子どもを主語に

・子どもが安心して自分を表現できる ・子どもが成長を実感できる ・子どもが自ら学ぶ

子どもを主語にして考えると大人は何ができるのか？

子どもを主語にして考えるとは、例えば「子どもが安心して自分を表現できる」ために、大人の意見の押し付けではなく「子どもの気持ち・意見を尊重する」。「子どもが自身の成長を実感できる」ために、大人は子どもができそうなことは子どもに任せて「子どもの成長を支える」。「子どもが自ら学ぶ」ために、大人は一方的に教え込むのではなく「子どもの学びたいと思うきっかけを作る」。このように「子どもが安心して自分を表現し、成長を実感でき、広い視野で社会と接し、自分の強みを見つけ、自ら学びたい」というきっかけを作るために、町立学校園の大人が子どもと関わる際の共通の合言葉を「子どもを主語に」としました。

行動指標					
	1	2	3	4	5
2. 生涯学習 の推進状況	生涯学習の推進に 関係する施策を 実施すること	生涯学習の推進に 関係する施策を 実施すること	生涯学習の推進に 関係する施策を 実施すること	生涯学習の推進に 関係する施策を 実施すること	生涯学習の推進に 関係する施策を 実施すること
3. 文化の 振興と人々の 生活の向上	文化の振興と人々の 生活の向上に 関係する施策を 実施すること	文化の振興と人々の 生活の向上に 関係する施策を 実施すること	文化の振興と人々の 生活の向上に 関係する施策を 実施すること	文化の振興と人々の 生活の向上に 関係する施策を 実施すること	文化の振興と人々の 生活の向上に 関係する施策を 実施すること
4. 子育て・学 校支援の 推進状況	子育て・学 校支援の推進に 関係する施策を 実施すること	子育て・学 校支援の推進に 関係する施策を 実施すること	子育て・学 校支援の推進に 関係する施策を 実施すること	子育て・学 校支援の推進に 関係する施策を 実施すること	子育て・学 校支援の推進に 関係する施策を 実施すること
5. 高齢者の 生活の向上	高齢者の生活の 向上に 関係する施策を 実施すること	高齢者の生活の 向上に 関係する施策を 実施すること	高齢者の生活の 向上に 関係する施策を 実施すること	高齢者の生活の 向上に 関係する施策を 実施すること	高齢者の生活の 向上に 関係する施策を 実施すること

氏名 学年 科 組 氏名 学年 科 組

学校内住所 〒 市 区 丁目 番 号 番 号

送付先住所 〒 市 区 丁目 番 号 番 号

送付先住所が不明の場合は、送付先住所を記入してください。

お名前、学年 住所(〒、市、区、町、番、号)	得意校 校 名	得意校の 校 長 氏 名	得意校の 教 務 長 氏 名	得意校の 教 務 長 氏 名
1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5

送付先住所が不明の場合は、送付先住所を記入してください。

送付先住所が不明の場合は、送付先住所を記入してください。

送付先住所が不明の場合は、送付先住所を記入してください。

3年間（令和4～6年度）の取り組み

・令和4年度: 教職員の交流

ネットワーク研修やICT体力コンテストの実施。非認知能力育成の具体的方法をまとめた冊子の作成。

・令和5年度: 子どもの交流

幼小中の子どもたちが協力しながら学ぶ機会を提供。「子どもを主語に」の理念が定着。学校園を超えての子どもの交流を促進。

・令和6年度: カリキュラムの交流

小中連携の探究学習で、地域課題の解決策を考える力を育成。先進校への視察を通して、多様な教育を太子町の教育へ取り入れる機会を創出。



年度当初に太子町立学校園で方向性を確認



夏季休業中に実施した全教職員対象の研修ブロックを活用して、個人の教育観を共有



子どもを支援する専門家（SSW）からの研修を全教職員へ実施（子どもを主語にした子ども支援について）



先進校への視察を通して、多様な教育のあり方を学ぶ研修を実施

教職員研修の充実

- ・太子町の教職員が学校園を超えて参加できる研修を3年間で76回実施

- ・子ども支援に関する研修・学校園間連携を充実

→心理の専門家・福祉の専門家・法律の専門家等による教職員研修の充実と学校体制の整備

→支援学校による研修を通しての支援教育・通級指導の充実

町内保幼小中による支援教育に関する交流・相互理解の場の設定



町内保育園・幼稚園の職員による支援教育・通級見学・交流会
熱心な説明と質問がおこなわれました。



支援学校による研修
実際の支援教育の見学と研修をおこないました。



法律の専門家（スクールロイヤー）による研修会。その他、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーによる研修も開催しています。

発信

- ・地域フォーラムの開催（R5 R6）
- ・専用HPの作成
- ・町広報誌への掲載（3年間 20号発行）

- ・大阪府主催各種研修での事例提供
「令和5年度未来に向かう力育成
セミナー事例提供」

- ・他府県・他市からの視察受け入れ
兵庫県加西市議会
京都府京都市教育委員会
山口県山口市教育委員会
東大阪市立学校
京都府城陽市 その他



府主催研修での発表
200名を超える方前で事例提供



広報記事のバックナンバーはホームページでご覧いただけます



加西市議会の視察受け入れの様子



地域フォーラムを開催



学校園で伸ばす
非認知能力

太子町立学校園ではどんなことをやって 子どもの非認知能力を育てているの？

太子町では、子どもたちが将来、自分らしく生き生きと成長できるよう、「非認知能力」を大切にした教育を行っています。幼稚園から中学校まで一貫して取り組むこの教育は、地域の皆さんと共に子どもたちの未来を支えるための大切なものとなっています。今回は、その成果と学校園での取り組みについてご紹介します。



① 非認知能力の伸長は

幼小中一貫でめざす子ども像へ向かう手段！

幼小中一貫教育で育む子ども像

【豊かな人生とより良い社会を主体的につくるために

自ら考え うごき 相手を大切にできる人】

非認知能力の伸長は、幼小中一貫でめざす子ども像へ向かう手段です。太子町では、子どもたちが将来豊かな人生を送るために必要な「非認知能力」の育成を、幼稚園から中学校までの一貫教育を通じて大切にしています。



① 7つの力を意識する

子どもたちと大人が非認知能力を意識しやすいように各校園で工夫をしています。

磯長小学校では

「心の力」として身近に感じられるようにしています。「シナショウレンジャー」というキャラクターを通じて、子どもたちが自然と大切な言葉を思い浮かべられる工夫をしています。

幼稚園では

「笑顔の根っこ」という表現で、幼稚園の通信で日々の実践をわかりやすく紹介し、笑顔のある心を育てています。

② つけたい力を

子どもと大人で確かめる

運動会や修学旅行などの学校行事では、どんな力を育てたいのかを子どもと大人が一緒に確認し、その目的に向けて取り組みます。行事の後には、振り返りの時間を設け、子どもたちが気づいたことや成長を記録し、次の挑戦につなげています。



③授業を通して伸ばす！

授業のはじめに「今日はどんな力を伸ばしたい？」と意識のスイッチを入れ、授業後には「実際にどうだったか？」とリフレクション（振り返り）を行います。

教師は、授業内で非認知能力を高めるための工夫を考え、教科や学年を超えて子どもたちの成長を支える活動を行っています。「子どもを主語に」した教育を大切にしています。



タブレットを活用した振り返り

振り返りの基準を各教科で準備

④気持ちの見える化！

感謝や思いやりの気持ちを「見える化」するために、「ありがとう」の気持ちを伝えるメッセージボードを設置しています。付箋に感謝の言葉を書いて貼ることで、気持ちがより具体的に見える形となり、あたたかな学校文化を育んでいます。



⑤支援教育で

非認知能力を高める！

支援教育では、自分がつけたい力を子どもたちが先生と共有し、それを周りの友達とも伝え合います。お互いに励まし合い、アドバイスをしながら、挑戦する意欲をさらに高めています。



⑥幼小中一貫教育の取り組みを動画で紹介しています

太子町が取り組む幼小中一貫教育の様子を、大阪府主催「令和6年度未来に向かう力育成セミナー」で紹介するために大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課に取材いただき、作成いただきました。

大阪府の好意で動画を幼小中一貫教育についてページで公開します。

(令和7年3月公開予定)

各学校園での活動や、子どもたちの学び・成長の姿をわかりやすく伝える内容となっています。幼小中一貫教育の取り組みがどのように進められ、子どもたちの未来へつながっているのか、映像を通じてぜひご覧ください。



二次元コードを読み取っていただくか
「太子町幼小中一貫教育」で検索ください。
(令和7年3月公開予定)

「笑顔の根っこ」 を育てましょう

太子町立幼稚園

非認知能力「笑顔の根っこ」を
育てる取り組み



・三歳児は、大切にされる体験を通して、将来の自分を考え始める。

・四歳児は、五歳児の活躍に憧れを持ち、身近な未来像をもつて成長する。

・五歳児は、リーダー性や寛容力を身につける。

○学年の枠を超えた異年齢での活動を工夫し、つながる力を育成する。

○栽培や飼育活動を重視し、生き物に直接触れる・かわる体験を通し、好奇心や探求心を高め、困難なことにもチャレンジする力を育てる。

○わくわく・ドキドキしながら遊びに熱中することで、どんなことにも意欲的に取り組む主体性を育む。



5歳児の取り組み

不思議さに触れ、感動体験から考えたことを表現

様々な幼虫との出会い！

今までの経験から様々な幼虫を発見し、関心をもって育て関わる中でたくさんの感動や不思議さに触れました。
ツマグロヒョウモンの幼虫については、幼虫が蛹になろうとしているところを見つけ、「ファイト！」と応援をする中、目の前で脱皮する瞬間をみんなで見て感動を味わいました。ナミアゲハの幼虫については、子どもたちが顔を近づけて話かけると、オレンジ色の角を出すことに驚き、不思議さを感じていました。



好奇心の高まり！キアゲハを見つけたよ！

幼虫の様々な様子を楽しんだことで、子どもたちに好奇心や探究心が芽生え、今度は家で栽培しているパセリにいた2匹のキアゲハの幼虫を見つけてきました。「キアゲハのキアちゃん！パセリがすき」と幼虫を見つけた子どもが書いてきた手紙から、「もう一匹はパセリのパーちゃん！」とみんなで名付け、進んで世話をしたり成長の様子を描いたりし、以前よりも生き物に対し愛情をもって優しく関わる姿へと変わっていききました。

継続して幼虫に関わる体験を大切にすることで、子どもたちは考えたことを自分なりに表現し、自然との関わりを更に深めていきました。

4歳児の取り組み

～気づきからの試行錯誤～



どろんこ遊びが盛んになってきた6月、3mほどの樋を出しておきました。早速、たらいに溜めてあった水を汲み、思い思いに水を流して遊び始めました。しばらく経った時、偶然一人の子どもの手からペットボトルが滑り落ち、樋を流れていきました。一瞬の出来事でしたが、子どもたちは歓声を上げて目をキラキラさせました。

もっと速く流したい！

“物を流す”ことを楽しみ始めた子どもたち。身近にあった葉っぱ、小枝、泥団子・・・どれもスムーズには流れません。すると、水を流す道具をペットボトルから計量カップに持ち替えた子どもがいました。口の広い大きい計量カップを使うと、一気に水が流れると考えたようです。さらに、別の子どもが樋の傾斜を考え始めました。「もっと（樋を）斜めにしたらいいんや！！」と、そばにあった短い樋を支えにし角度を上げます。バランスの悪い樋を支えるために子どもたち同士支え合い、使えそうな道具を工夫して子どもたちなりに何とか傾斜を作り、いろいろなものを流して楽しみ始めました。



偶然の出来事から“もっとこうしたい”気持ちがどんどん生まれ、それを実現させるために試行錯誤を繰り返していく姿がありました。教師はあえて見守り、子どもたちのつばやきや発見に共感し上手くいかないことも含めて一緒に楽しむことを心がけました。子どもたちは“こうしたらどうだろう・・・”といった自分の考えを伝え合い、物をスムーズに流すための方法を友達と共有しながらどんどん行動に結びつけていました。子どもたち自身で遊びを進めていく中に大切な経験がたくさん詰まっていることが見てとれました。

栽培活動から生まれるチャレンジ



育てた野菜を数えたい！

春から育ててきた野菜が収穫の時期になりました。3学年それぞれ収穫の喜びを味わいます。

あるとき、3歳児が野菜を数えようとしていました。採れた野菜を種類別にして一列に並べることで数えやすくすることに気づきました。幼稚園玄関に「収穫ボード」を設置してイラストの数で収穫数を表していました。そのボードを見事に応用して、自分たちが収穫した野菜を数えて楽しんでいます。



つながる喜び、そして、憧れを感じて



みんなで給食

1週間に1回、3学年で給食を食べます。5歳児はヨーグルトのふたがうまく取れない3歳児をさっと手助けしています。また、お箸の持ち方もお手本になっています。「一緒に食べよう」と言ってクラスの枠を超え友だちを誘い楽しい雰囲気を作っています。そんな5歳児の姿に4歳児は来年の自分をイメージし始めています。

体操の後には自分たちで協力して片付けています。町立幼稚園では、「憧れ」がもたらす心のベクトルとエネルギーを大切に、子どもたちが自らの自己実現に進む力を育む取り組みを進めています。

みんなで片付けます



3歳児の取り組み

～幼稚園が楽しくなる魔法～

●初めての集団生活

4月、家族から離れ幼稚園での1日がスタートした子どもたち。初めての環境に戸惑い、なかなか自分を出せずに過ごす姿が多くみられました。そこで、子どもたちの困り感を助ける存在を担任から友だちへ移行し、友達との繋がりが深まるように働きかけることにしました。



子どもたちの困り感を担任が解決せずに友だちへと返していったことで、子ども同士の会話も増えていきました。友達に頼ってもらえた経験は、どんどんと子どもたちの自信へと繋がり、積極的に関わろうとする姿へと変化していきました。

また、自分と近い存在である友だちに手伝ってもらったことで、次は自分がやってあげたいという意欲も大きくなりました。



いつも近くで助けてくれる友達という大きな存在が、子どもたちを笑顔にし、様々な活動に積極的に参加する意欲へと繋がっています。今後も、園生活を通し、友達という魔法のような存在を増やしていただきたいと思います。

夢中に、そしてわくわく



自分で決めたことを

一輪車・竹馬・フラフープなど自分で決めたことを夢中に練習します。できない悔しさ、できた達成感の両方を味わいながら、自分の可能性を追い求めていく姿がいつも見られます。

発見と工夫と相談と



降り続いた雨のやみ間、園庭にできた水たまりで水をすくう遊びが始まりました。子どもたちだけで相談しながら、どんな道具をどう使えばうまくすくえるか、友達と一緒に工夫と発見を繰り返します。

「豊かな心」の育成

～チャレンジ・ひたむき・つながり～

太子町立磯長小学校



令和6年度磯長小学校では、授業、行事、休み時間等のすべての学校生活の中で、「心の力」の伸長を目指しています。

まず、異学年交流では、昨年度から縦割り班を用いて全校児童が学年の枠にとらわれずに交流することができるようになりました。年下の学年に対してどのように関わるのか、また集団で行動するためには、どのように行動すべきかなどを体験を通して学んでいけるようにしています。

次に、太子町全体で取り組んでいる非認知能力を全児童が意識することができるよう非認知能力を「心の力」とよぶことにしました。さらに、「心の力」を、3つのキャラクターにすることで親しみやすくしました。

最後に、授業については、主体的な学びを表現するために、「自分の思いや考えをもち、表現できる子どもの育成」との力を伸ばすために「心」をテーマに、言語活動を大切にしたい学びを深めることができるように取り組みを進めています。

子どもたちが主役となつて、豊かな心を持つ、元気な子どもたちの育成を目指しています。

「心の力」をはぐくむ

異学年交流

磯長小学校では、様々な学校行事の機会を設けています。どの活動でも、非認知能力を児童につけることができるように意識して取り組んでいます。今回は、大きな取り組みとして、縦割り班の活動、運動会・二上遠足について紹介したいと思います。

縦割り班の活動について



縦割り班は、6年生をリーダーとして全学年を含む編成としています。1学期には、6年生が企画した遊びを縦割り班で行いました。各班で計画した遊びを掲示し、メンバーに伝えるようにしています。6年生だけが頑張るのではなく、他の児童も自分の所属はどの班で、どんな遊びをするかを事前に確認するなど、それぞれができることを行い、当日は楽しく遊ぶことができました。この活動を通じて「他者とつながる力」を意識することができました。



運動会 二上遠足 について

磯長小学校では、毎年2学期に運動会、二上遠足を行います。

運動会では、学年で一致団結し団体演技や団体競技の練習に励んでいきます。子どもたちは、おうちの人や今までお世話になった人たちに自分の成長した姿を見せたいと感じ、熱心に練習に取り組んでいます。また、係活動を中心に異学年交流も盛んにおこなっています。

二上遠足は、縦割り班で行う遠足です。6年生が中心となり、リーダーシップを発揮しますが、他の学年の児童も心の力の「他者とつながる力」を意識しながら、どのように関わるか考えて行動します。児童たちにとって山に登ることは大変なことです。が、「自分を高める力」や「自分と向き合う力」も意識しておこなっています。

豊かな心の育成

毎日の生活で「心の力」を意識



学校教育目標として、磯長小学校が大切にしてきた「豊かな心」を「心の力」としました。

「心の力」を自分を高める力、自分と向き合う力、他者と向き合う力の3つに分けて、それぞれキャラクター化することにより、子どもたちが身近に感じることができました。



「心の力」を啓発する劇を行い、子どもたちから3つの力に関連する発言を集めて、教室に掲示し、価値の共有を行いました。



↓【大切にしたい子どもたちの発言】

～自分を高める力～
「もっとやりたい！」
「次はこれにチャレンジしたるで！」
「おたすけいいい？」
「失敗は成功のもと」
「できっこないをやらなくちゃ」
「もっと知りたい！やりたい！」



～自分と向き合う力～
「なんだろう」
「あきらめへんで」
「やりきったらバンザイするぞ～」
「失敗は友達」
「どうしたらできるんだろう」
「家でやってきてもいい？」



～他者とつながる力～
「おたすけする」
「みんなでやったらええやん」
「ちびっこ先生になってもいい？」
「できたやん！がんばったなあ」
「給食かわりに行っとくで」
「教えてくれたからできたわ」

支援学級

交流および共同学習を みんなで楽しむために



3年生と交流学習

国語で「ワニのおじいさんのたからもの」のロールプレイを行いました。ワニ、おにの子のお面、落ち葉などを工作しました。実際にそれぞれの立場演じることで、気持ちを考えることができました。

成果物をクラスに持っていき、クラスメイトと交流を行いました。



他者につながる力

自ら他者とながろうとする力をつけるために、小集団で「つながり」経験を重ねました。

仲間づくりワークとして、たんでいごっこを、ソーシャルスキルトレーニングとしてムシムシマンションを、仲間との協働活動として新聞紙タワーを行いました。「話し合って方向性を決めること」「同じ目標に向けて進めること」「自分の役割をがんばること」を意識しました。

体力向上の取り組み



体力向上の観点と、キャリア教育の観点より体育委員会では、児童が自ら考え、磯長小学校の児童の体力向上の取り組みをおこなっています。

5月にはスポーツテストと関わって、反復横跳びの取り組みを行いました。昼休みの時間に、体育委員会主催で体育館を開放し、反復横跳びを体験する機会を設けました。

6、7月には梅雨時期のイベントとしてフリースローの活動を行いました。はじめは、体育委員会の仕事で、わからず不慣れでしたが、実際に仕事を行っていく中で自分で考えて動くことができるようになってきました。磯長小学校の児童の体力向上のために2学期も引き続き活動を続けていきたいと思います。

太子町幼小中一貫教育 取り組み事例

～自ら考え・伝え・ つながる子ども～

太子町立山田小学校

非認知能力向上のために

- 「子どもを主語に」
⇒ 「安心して表現できる」
「成長を実感できる」
「自ら学ぶ」
- 非認知能力アドバイザーによる研修
↓
非認知能力は・・・
認知能力を支える大切な基礎
「認知能力」の向上にもつながる

◆ 教育目標を達成するために
「非認知能力を高める意識付け」
・ 教育目標を共有できる教師集団
・ 豊かなつながりを生み出す生活指導
・ 学習指導
・ 家庭との関わり
・ 安心して学べる学校環境

- ◆ 【本校教育方針】
◆ 本年度の重点目標
- ① 子どもたちの安心・安全
 - ② 学力向上
 - ③ 幼小中一貫教育の推進

学校教育目標

- ・ たしかな学力
- ・ 解決する力
- ・ 豊かな心
- ・ 健康で安全な生活



学力向上～子どもの思考を発信する～

挑む力

あきらめない力

認知能力

非認知能力

1年目

思考を促す
(種まき)

2年目

思考を整理
(育てる)

3年目

思考を発信
(実を結ぶ)

令和6年度は3カ年計画で進めてきた取り組み
「自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う児童
の育成」の最終年となります。

今年度は【思考を発信する】をサブテーマに研究
しています。研究テーマに加え、7つの非認知能力
を意識することで教育目標達成に向けてのよりよい
学びができるように授業や行事の中で工夫していま
す。

体験を通した学び「出会い」

本校では、学校にゲストティーチャーを招くなどして、
出会い・体験を重視した取り組みを実施しています。

目標を
持つ力

水道局出前授業



4年生対象に、水道局の役割やきれいな水が出る仕組みを教えてもらいました！

演技指導を受けながら劇団員の方々と6年生が共演！



文化芸術（一休さん）

プロバスケットボール選手招待



現役プロ選手を招いて、デモンストレーションや試合を行いました！

琴や尺八など普段ふれることのない楽器を教えてもらいました！



琴尺八体験

たてわり班活動

協働する力

「どの子にとっても安心できる環境づくりを」

全校遠足



たてわり遊び

児童会行事



本校では、多様な他者とふれあうことで、自他のよさに気づき、人間関係を深め、自己有用感・自己肯定感を高めることをめざして、たてわり活動を行っています。たてわり活動には「高学年の児童にリーダーとして活躍の場を」「低学年が安心して学校生活を送れるように」という大きな2つの目的があります。今年度は、全校児童178名を10のグループに分けました。1学期は、「全校遠足（たてわりウォークラリー）」「たてわり遊び」「児童会行事（クイズ大会）」を行いました。「全校遠足（たてわりウォークラリー）」では、高学年のリーダーたちが中心になって、ウォークラリーのポイントのクイズやコースなどを考えて活動しました。「たてわり遊び」では、10グループを中遊びと外遊びに分けて活動しました。リーダーたちは、みんなで楽しく遊べる遊びを考え、当日の遊び場所や必要な持ち物を事前に周知してから取り組みました。「児童会行事（クイズ大会）」は、児童会のメンバーが考えたクイズを、協力してたてわり班のみんなで答える活動をしました。どの活動もみんなとても楽しそうに取り組んでいました。今後も児童会が中心となって楽しい行事を考え、学級・学年を越えた「人とのつながり」を大切にしながら、どの子どもにとっても安心できる環境づくりをすすめていきます。

支援教育

自己調整力

交流を通した自立活動



オンライン交流会の様子



児童が作成した学校紹介



今年度は磯長小の支援学級との交流の機会を多く設定しています。学年ごとに「太子町の魅力を伝えよう」「学校のことを紹介しよう」などのテーマを決め、Googleスライドで発表するための資料を何度も練り直しながら作りしました。出来上がった資料を使って、オンラインで発表しました。

「同じ町内の小学生同士で発表する」という経験を通して、自分の考えを発信することに対する抵抗感を和らげ、意欲的に取り組むきっかけにできたらと考えています。

受け入れる力

生活指導

～つながり

みとめあう～

伝える力



ことばで伝えよう！
「しゃしんを見てひとこと！」



「気持ちがつまった感謝板」

この掲示は、低学年を対象に募集を募ったものです。写真を見て、思ったことを書いたり、気持ちを考えて表現したりと、発信することをねらいとして取り組んでいます。人によって、見方・考え方・表現の仕方に違いが見られ、様々な捉え方をしているのが目に見えて分かります。

休み時間に足を止めて児童に見てもらいために、来校者の方に見つけてもらいじっくり見てもらうために玄関を入ったすぐのところに掲示してあります。子どもたちは自分の書いたものが貼られ、見てもらえると嬉しいようです。

学期に数回、子どもたち同士がいろいろなテーマにもとづいてメッセージを書き、廊下の壁に貼り出しています。

この活動を通して「つながり」を強く太くして、お互いを認め合い、安心して楽しく通うことができる学校を目指しています。

写真のテーマは「ありがとう＆がんばったね1学期」です。1学期間にあったことを振り返り、友だちに感謝の気持ちを伝えたり、頑張りを認め合ったりしました。

一人ひとりの良さが輝く 魅力ある学校づくり

太子町立中学校

太子町立中学校 学校教育目標

太子の土壌に立ち 未来を見据え
自ら学び 自ら動く生徒
一人ひとりの良さが輝く学校

◆教育活動（学年運営・学級運営・授業・行事・部活動など）のすべてが、学校教育目標につながるように意識する。

【学校概要】

◆わがまち会議

本年度の学年目標
「学年でつきたい力の見える化」
キャリアパスポート
「各学期や行事での変容の見える化」

◆支援教育

自立活動を通して育てる非認知能力

◆学力向上

確かな学びを育む取り組み
「卒業時までにつける力」を明確にする
認知能力・非認知能力を両輪に七つの力を育てる

◆生徒会活動／自ら考え行動する

「検討会議」「生徒会学活」
「メークハート運動」
「生徒会ラジオ」

◆生徒指導

業間運動

校内支援教室「あゆみルーム」

◆未来を生きる力を育む

生徒主体の授業づくり
学び続ける教職員集団をめざして



わがまち会議

本年度の学年目標

【学年でつきたい力の見える化】

『非認知能力』を軸としたカリキュラムマネジメント

- ・どのような学年にし、どのような力をつけさせたいか
- ・なにを意識して取り組むべきか、それができたのか
- ・重点的に取り組む内容は何か、教科などとの関連は？



1年生

「1人も見捨てない居心地のいい学年 仲間 自治 学力」

2年生

「ポテンシャル ～みがけ持ち味～」

3年生

「つたえよう」「つなげよう」「つくりあげよう」
そして「つかんでいこう」

キャリアパスポート【各学期や行事での変容の見える化】

- ・自分の伸ばしたい力や強化したい力を7つの非認知能力のうちから選び出し決める
- ・各学期や行事について、見通しを持ったり、振り返ったりすることを通して自分の変容を認識し評価する

支援教育(あおば学級)

自立活動を通して育てる非認知能力 ～栽培活動編～

◆【4月中旬】

どの野菜を植えるかあおば学級メンバーで協議する。
(伝える力・受け入れる力)



◆【4月末】

種・苗を自分たちで買いに行く。
(協働する力)

◆【5月上旬】

耕運機・クワを使って自分たちで畑の土壌・畝づくり、種まき、苗植え。
(自分を調整する力
・あきらめない力)



◆【7月～】

野菜の収穫、収穫した野菜を教職員に販売。
(協働する力・挑む力)



野菜を育てるという自立活動を通して、一人ひとりの必要な支援につなげています。また、自分の役割を果たすことが、みんなのためになることや、みんなと協力し、達成する喜びを感じることを自立活動では大切にしています。

学力向上

確かな学びを育む取り組み

☆本校の学力課題

- ・思考・判断・表現の力を問われる問題の正答率が低い。(全国学力・学習状況調査より)
- ・ICT機器をより有効に活用できるようにする。
- ・主体的に学びに向かう力の育成。

「卒業時までにつける力」を明確にする。

➡「卒業時までにつける力」を、逆向きで設計図を作り、計画通りに進んでいるかを見直し、全体で共有しています。そのため、教科会議を持ち、学期ごとの見直しを実施しています。

「認知能力」・「非認知能力」を両輪に7つの力を育てる。

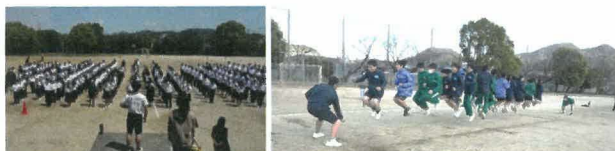
➡生徒が授業でどのような力をめざし、何ができるようになったか、を意識できるように、様々なギミックやそのギミックが果たして有効なのか？を相互授業参観を通じて、事前共有・参観・事後共有をして生徒主体の授業について各教科で取り組んでいます。



「普通の授業」から非認知能力を育むことを意識する。

生徒指導

◆非認知能力を育む、町立中の伝統『業間運動』



「業間運動」は30年以上続く町立中伝統の取り組みです。集団行動を通して、他人への思いやりの気持ちを大切にしています。「自分と向き合う」「自分を高める」「つながる」という非認知能力を意識しています。

◆一人も見捨てない居心地のよい学校をめざして校内支援教室「あゆみルーム」の開室

「あゆみルーム」…教室に入りにくい、集団が苦手な生徒が安心して自分のペースで学べる場所。



- ・自分の時間割を決め、ホワイトボードに記入する。(自分の行動を自分で決定する。)
- ・担任や学年の教職員、養護教諭、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、多くの大人との関わりを通して、「目標・夢を持つ力」「伝える力」「協働する力」などの非認知能力の育成につなげています。

生徒会活動～自ら考え行動する～

生徒会目標

「一人も見捨てない居心地のよい学校」の実現に向けて、様々な活動に取り組む

【検討会議】

町立中学校検討会議を設け、学校生活の課題点について考え、検討する場を設置。

【生徒会学活】

全校生徒の意見を聞き、一つの議題に対してみんなで考える「生徒会学活」を行う。

【メークハート運動】

7つの非認知能力を意識し、自分と向き合う機会を設ける。

【生徒会ラジオ】

放送を定期的に行うことで、生徒会の活動を発信。



【マスコットキャラクターの選定】

生徒会活動をより身近に感じてもらうと、生徒会メンバーが中心となって、マスコットキャラクター選定にも取り組む。

生徒会マスコット
キャラクター
「太神(たいしん)」



今後も先輩から引き継いできた取り組みを、さらにレベルアップさせ、太子中生自身の力でよりよい太子中をつくりあげていく。

「未来を生きる力」を育む生徒主体の授業づくり

学び続ける教職員集団をめざして

★相互授業参観の実施

- ・各教科で、参観前➡参観➡参観後の意見交換
- ・研究テーマを達成するためにどのように取り組んでいるか。
- ・生徒主体となるための「ギミック(しかけ)」は？
- ・学びを深める「振り返り」は？
- *お互いの取り組み工夫について、もっといい取り組みはないか、他にどんな工夫が考えられるかを意見交換し、研修を深める。



➡ギミックを「見える化」

「ギミックブラッシュアップシート」を使って効果的な活用方法を検証する。

★教科ごとに考える非認知能力の研修を計画的に実施・継続

- ・非認知能力の「見える化」
- ・ルーブリックを実行可能に
- ・振り返りは？
- ・なぜ非認知を意識することが大切なのか
- ➡取り組んだことの情報交換



「子どもを主語」にして、
子どもが学ぶ喜びを体得できるように



太子町の幼小中一貫教育は次のステージへ

学校園が育む非認知能力から

太子町で育む非認知能力へ

太子町の幼小中一貫教育第二期では、「非認知能力」をキーワードに、学校の取り組みをさらに発展させ、地域・家庭が一体となって子どもたちの「非認知能力」の向上を通して、「ウェルビーイング」と「エージェンシー」を高める環境を整えます。大人と子どもが互いに学び合い、子どもたちが主体的に成長し、より良い人生を切り拓けるよう、連携（つながり）を強化していきます。

発行：太子町教育委員会

令和7年1月

お問い合わせ：太子町教育委員会教育総務課 0721 (98) 5533

講師募集状況を掲載中！

太子町の学校で、
子どもの成長を支え・関わりたい！
お気軽に上記連絡先へお電話ください！



幼小中一貫教育について

HPで発信中

